令和８年度版

2026

小・中学生広島平和学習レポート



小平市教育委員会

教育部地域学習支援課

目　　次

「小・中学生広島平和学習」の実施にあたって……1

小平市非核平和都市宣言……2

平和宣言（令和８年 広島市 平和記念式典）……3

「小・中学生広島平和学習」の日程……5

事前研修・広島訪問……7

事後研修……9

参加者の声……10

参加者名簿……31

「小・中学生広島平和学習」の実施にあたって

小平市は、戦後 60 周年にあたる平成 17 年に、すべての国の核兵器の廃絶を求め、市民とともに、世界の恒久平和を願い、平和なまちづくりを進める決意のもとに非核平和都市であることを宣言しました。

この宣言からちょうど５年を経過する平成２２年度にむけて、非核平和都市宣言にふさわしい事業を検討するため、平成２１年度に小平市非核平和事業の在り方等に関する懇談会が設置されました。

この懇談会では、市が新たな平和関連事業に取り組むことで、少しでも世界平和の実現に貢献できればとの願いのもと、検討が行われ、市に報告がなされました。

その報告の中で、非核平和都市宣言５周年にふさわしい事業として「小・中学生の広島派遣事業」の提案がありました。

平成２２・２３年度には、この事業の実現に向けての検討を行い、平成２４年度からは「小・中学生広島平和学習」という事業名で、毎年度実施しています。

「小・中学生広島平和学習」は、非核平和都市宣言の願いを踏まえ、こどもたちが実際に広島を訪問して原爆ドーム等を見学したり、平和記念式典に参列することで、戦争の悲惨さ、平和の意義について考えてもらうことを目的とした事業です。

令和８年度は、小学生２人、中学生８人の計１０人と引率者４人で実施しました。

小平市非核平和都市宣言

世界の平和の実現と核兵器の廃絶は、わたしたち人類共通の願いです。

しかし、世界ではいまだ戦争がやまず、核兵器は人類の脅威となっています。

わたしたちは、世界で唯一の核兵器による被爆を体験した国民として、その悲惨さや恐ろしさを全世界に伝えていく重要な役割を担っています。

先人が築いた玉川上水の清らかなせせらぎと、緑豊かな大地に育まれたこの小平の地を守り、次代を担う子どもたちに引き継いでいくために、わたしたち小平市民は、友愛の心を持ち、平和の実現に努めていきます。

小平市は、戦後 60 周年にあたり、すべての国の核兵器の廃絶を求め、平和への誓いを新たにし、ここに非核平和都市であることを宣言します。

平成１７年６月７日

小平市

平 和 宣 言

被爆から81年が経過した今、私たちが暮らすこの地球上では、核を脅しの道具に使った軍事侵攻や国際法をないがしろにする大国の横暴な振る舞いが繰り返されています。
また、今年開催されたNPT(核兵器不拡散条約)再検討会議では、過去2回に続き成果文書が不採択となりました。その原因は、他国に責任を転嫁し自国の行動を正当化する為政者の言動にあります。また、こうした為政者の言動は、NPTが定める義務を無視するに等しく、世界の平和と安定を根底から揺るがすものです。

このままでは世界中で不信の連鎖が進み、欲望がむき出しになっていた第二次世界大戦の時代に回帰してしまいます。核兵器の非人道性を軽視し、自国の繁栄のための武力行使を認めることは、暴力を伴う報復の連鎖を許容し、第三のヒロシマ・ナガサキを作り出すことになりかねません。

皆さん、ここで再度、あの惨禍を生き抜いた被爆者の体験に耳を傾けてください。当時16歳だった女性は優しかった姉のことを振り返ります。まるで骸骨のように皮膚が崩れてなくなり、唇のない口から歯がむき出しになっていた姉の顔は、悪夢のようで信じられなかった。また、3歳で被爆した後に次々と病に襲われ、55歳で白血病を発症し原爆症と診断された女性は、いつも次にどんな病気がくるのかという恐怖と隣り合わせの日々だったといいます。また、別の当時9歳だった男性は、多くの一般人が犠牲になっているロシアによるウクライナ侵攻を目の当たりにし、争いが起きない世界を創るため、自分の中の争いの心を乗り越え、相手の考えを受け入れる気持ちを持ってほしい、とりわけ若い世代には、そのために身近なことから考えてほしいと訴えます。

市民社会は、こうした被爆者の声や被爆者の思いを伝承する活動に鼓舞され、核兵器廃絶と平和を願う行動の輪を、国境を越え世代を超えて広げてきました。しかし、多くの為政者は現実的な対応として核抑止力に依存し続け、暴力を肯定する国際社会が出現し、核兵器のない世界は遠のくばかりです。戦争の記憶が薄れることで核兵器の使用が容認されかねない時代を生きる私たちは、今改めて、国連を創設し核兵器廃絶を決意した過去の教訓を学び直す必要があります。そして、一人一人があらゆる暴力を否定し、核兵器廃絶という理想を理想で終わらせない国際社会を創り上げるための行動を起こす必要があります。

そこで、若い世代の皆さんに提案があります。価値観の異なる人々との国境を越えた交流を深めてください。そうすることで、嬉しさや楽しさ、夢や希望を共有することができます。既に世界の多くの若者が、広島を始め様々な場で被爆の実相を学び、交流を深

めています。皆さんも平和のために日常生活の中でできることを実践し、自らの思いを発信することで、その行動の輪を広げていってください。こうした取組は、お互いを認め合う平和文化を世界中に根付かせ、核兵器廃絶を国際社会の常識にすることにより、為政者が核抑止力に依存することを認めない環境づくりにつながります。広島市は、平和首長会議の8,589の加盟都市と連帯し、平和文化を世界中に広め、次の世代に伝える活動を後押しするとともに、「ヒロシマの心」を世界に訴え続けます。

世界の為政者の皆さん。市民社会は一日も早い核兵器廃絶を願っています。いったい、いつまで失望させ続けるのですか。核兵器の使用が人類に壊滅的な被害をもたらすこと、そして核軍縮・不拡散は、多国間で取り組むべき課題であることを十分理解されているはずです。また、核保有国の為政者の皆さんは、核軍縮に大きな責任を有しているのですから、自ら範を示す必要があることを十分認識されているはずです。世界の為政者の皆さん。自ら被爆地を訪れ、ヒロシマ・ナガサキの悲劇と真剣に向き合い、被爆者の平和への思いを受け止めてください。私たち市民社会は、為政者の皆さんが被爆地から核兵器廃絶への決意を世界に発信し、そのための政策を実行することを心から待ち望んでいます。

日本政府には、日本国憲法が掲げる崇高な理想を深く自覚し、国際社会において名誉ある地位を占めるための歩みを止めないでいただきたい。とりわけ、各国との分断や対立が生じかねない厳しい安全保障環境にあるからこそ、国民に犠牲を強いることのないよう、したたかで粘り強い外交に徹する中で、国際社会の平和と安定に向けて貢献し続けることを表明し、実行していただきたい。そのためにも、まずは今年11月から開催される核兵器禁止条約の再検討会議にオブザーバー参加し、そして、一刻も早く締約国となっていただきたい。また、平均年齢が86歳を超えた被爆者の支援策については、今なお抱えている様々な苦しみや苦悩に寄り添い、在外被爆者を含めた被爆者援護のあり方を踏まえた上で、その充実を図ることを強く求めます。

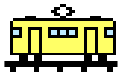
本日、被爆81周年の平和記念式典に当たり、原爆犠牲者の御霊に心から哀悼の誠を捧げるとともに、核兵器廃絶とその先にある世界恒久平和の実現に向け、力を尽くすことを誓います。そして、改めて市民社会に呼び掛けます。世界中の皆さん、被爆者の切実な思いが込められた「ヒロシマの心」を胸に、共に行動することで世界を変えていきましょう。

令和8年（2026年）8月6日

広島市長　松井　一實

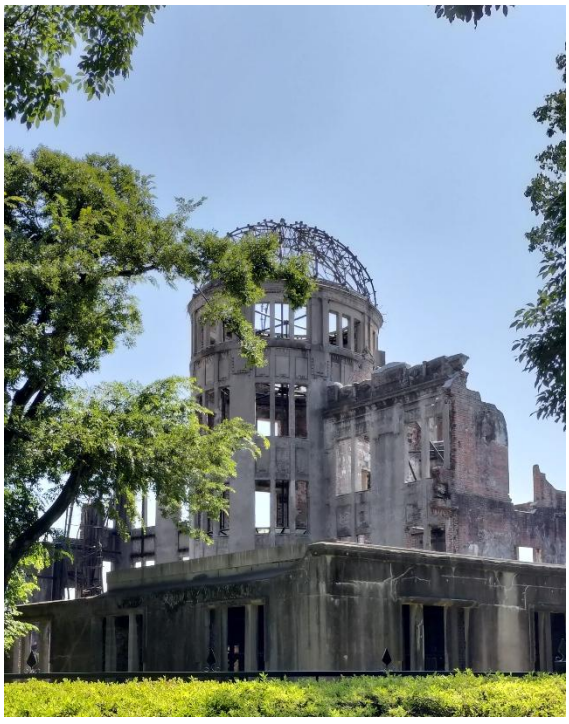
「小・中学生広島平和学習」の日程

１日目　８月５日（水）　　朝食×　昼食○　夕食○

時間	内容
７：00	市役所集合（集合場所　市役所　立体駐車場東側）
７：05	市役所出発
７：17	青梅街道駅発 
７：24	国分寺駅着
７：39	国分寺駅発
８：28	東京駅着
９：00	東京駅発（のぞみ 135 号）  
	昼食（車内）
12：56	広島駅着
13：20	マイクロバスで移動
13：50	広島平和記念公園着
～17：00	公園内見学
	原爆ドーム、慰霊碑、原爆の子の像（折り鶴を献納）、
	平和記念資料館・爆心地等を見学
17：30～18：30	平和記念公園を出発～芸州本店着（夕食） 
18：30～19：30	マイクロバスで移動～ホテル クレイトンベイホテル着
19：30～21：00	荷物整理・入浴・自由時間 
21：00	消灯・就寝 

２日目　８月６日（水）　　朝食〇　昼食〇　夕食×

時間	内容
５：15～５：45	起床・洗面・清掃・荷物等整理
５：45～６：00	出発準備
６：00	ホテル発　マイクロバスで移動
	朝食（バス内）
６：45	広島平和記念公園到着、平和記念式典の受付
８：00～ ８：55	平和記念式典参列
８：55～10：30	献花（１人１本）、G7 広島サミット記念館見学
10：30	広島平和記念公園発　マイクロバスで移動
11：30	広島駅着
11：30～12：30	昼食（お好み焼き・ひろしまお好み焼き物語）
12：30～13：45	班ごとに自由行動
13：50～13：55	集合
14：03	広島駅発（のぞみ９８号）
17：57	東京駅着
18：20	東京駅発
19：00	国分寺駅着
19：19	国分寺駅発
19：25	青梅街道駅着
19：35	市役所到着・解散







事前研修・広島訪問

事前研修

令和８年７月４日（土）午後１２時３０分～２時３０分
中央公民館

参加者同士が事前に顔を合わせ交流が深まる機会として、またより効果的な学びや体験につなげるために、平和学習の目的や意義、広島での見学内容などについて、事前に学習する事前研修を実施しました。

事前研修では、本事業の参加に当たり、事前に書いてきた「広島について思うこと」を基に、平和に対する意識や考えなどについて、グループ討議を行いました。また、今回は初めての試みとして、原爆ドームや平和記念公園などについて、２人ペアで発表することとし、そのために、当日までに説明を担当する分野を各自で調べたり、考えたりするよう、事前に自主学習をしてもらいました。

広島訪問

令和８年８月５日（水）～８月６日（木）
広島市内

１日目の新幹線の中では、発表するペア同士で自主学習の内容を共有し、役割分担を話し合いながら、発表の準備をしました。広島駅に到着後、マクロバスで平和記念公園に移動し、公園内や広島平和記念資料館を見学しました。

見学地：原爆死没者慰霊碑、平和の灯、原爆の子の像、原爆供養塔
平和の鐘、平和の時計塔、原爆ドーム、爆心地、アオギリ
広島平和記念資料館など



見学にあたっては、お互いに自主学習の成果を発表し合うことで学びの循環につながりました。

原爆の子の像に捧げる千羽鶴は、参加者だけでなく市立小・中学生にも協力していただきました。参加者は、市の代表として 2,500 羽を超える千羽鶴を献納しました。

平和記念資料館の見学では、多くの来館者で、一部のエリアでは、身動きもできずなかなか進めない状況でした。

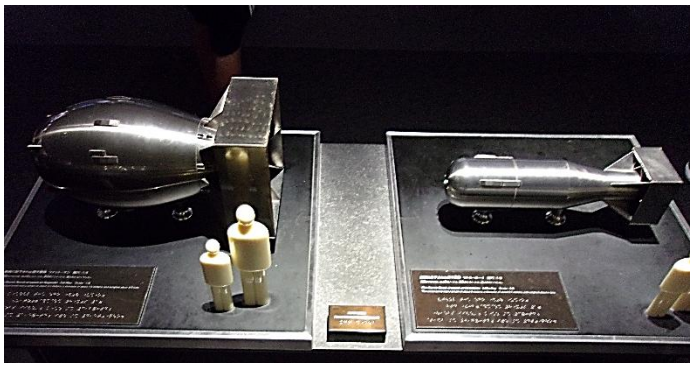
混雑している中でも、模型や被爆資料などの写真を撮ったり、説明文を読んで質問したり、実際に見学することで、改めて戦争の歴史や出来事、悲惨さを感じた、と話していました。



広島平和記念資料館を見学する前は、直接、戦争の映像や写真を見ることが不安であると心理的な負担を抱えている参加者もいましたが、参加者同士や引率者が寄り添い、丁寧に声掛けをしたこともあり、最後まで見学することができ、良かったと話をしていました。







翌８月６日は、早朝６時前に宿泊先を出発し、平和記念式典の会場へ向かい、入場受付では厳しい手荷物検査やボディチェックを通過し、メイン会場で参列しました。

式典では、原爆死没者名簿奉納、内閣総理大臣や広島市長等の式辞があり、８時１５分には、黙とう・平和の鐘、こども代表による平和宣言など、厳粛な雰囲気の中、式典が執り行われました。参加者も真剣で考え深い表情で参列し、貴重な体験をすることができました。

式典の後は、戦没者への献花を行い、一人ひとり平和への願いを込めながら、ゆっくり手を合わせていました。





平和記念式典への参列後、広島訪問の楽しみの一つでもある広島焼きを美味しくいただきました。店員さんとも仲良く交流しながら、全員が完食していました。

広島駅構内での班行動では、家族や友達へのお土産、自分へのご褒美など、悩みながらも楽しく買い物をしていました。

帰りの新幹線では、早起きしたにもかかわらず最後の最後まで賑やかに、全員で人狼ゲームなどをしながら、元気いっぱい楽しんでいました。

短い２日間を通じて、学年や学校を超えた活発な交流の様子も見られ、参加者にとって有意義な貴重な機会になったと思います。

事後研修・被爆体験者等の講演

グループ討議

令和８年８月２２日（土）午後２時～午後３時
中央公民館

事後研修では、広島平和学習を通じて学んだことや感じたことを、グループで話し合いながら振り返りを行いました。



被爆体験者等の講演・報告会

令和８年８月２２日（土）
午後３時～午後４時３０分　中央公民館

グループ討議の後、被爆体験伝承者の講演に参加し、講師との懇談のほか、広島平和学習の報告会を行いました。

被爆体験者等の講演

被爆者から直接受け継いだ被爆体験や平和への思い、戦時下の人々の暮らしや原爆の人体への影響等の被爆の実相、原爆被害の概要など、伝承者としての平和への思いを分かりやすく講演ししていただきました。



講　師：広島市被爆体験伝承者　野田信枝さん
参加者：５３人（広島平和学習参加者１０名含む）

報告会

報告会では、広島に行く前と行った後の「広島について思うこと」の変化や「広島に行って一番印象に残ったこと」、「平和な世の中をつくっていくために何が大切と思ったか、自分たちができることは何か」などの内容を発表し、改めて、参加者が学んだことや平和のためにできること、平和の大切さをどう伝えていくのかを考える機会となりました。



参加者の声

参加者は、事前研修で学んだことなど、様々な想いを胸に抱いて広島を訪問しました。

事前研修や事後研修などでまとめた参加者の声は、以下の４つの視点から書かれています。

① 平和学習に参加する前の広島のイメージ
② 平和学習に参加した後の広島のイメージ
③ 平和記念資料館や平和記念公園を訪ねて何が一番印象に残ったか
④ 平和な世の中をつくっていくために何が大切で、そのために自分たちができることは何か

参加者が自分の目で見て、耳で聴いて、肌で感じてきたことが、自分の言葉でつづられています。

参加者のみなさんは、実際に広島へ行ってどのようなことを感じたのでしょうか。



参加者名簿





岩佐　映花	小平第二中学校２年生
枝並　徳穂	小平第五中学校１年生
大川　靖	小平第六中学校３年生
菊地　凛	小平第十四小学校６年生
北川　寛人	小平第一中学校１年生

小林　涼音	小平第三中学校３年生
親谷　和磨	小平第四中学校３年生
那須　美桜	上宿小学校６年生
畑　和樹	小平第三中学校１年生
茂木　ひなた	小平第三中学校３年生

引率：青少年委員１人、看護師１人、地域学習支援課職員２人

2026 小・中学生広島平和学習レポート

令和８年度版
令和８年１０月発行

編集・発行　小平市教育委員会教育部地域学習支援課
小平市小川町２丁目１３３３番地
電話 ０４２―３４６―９８３４
chiikigakushushien@city.kodaira.lg.jp